



沖縄：感染症との闘いに掲げる聖火

ピーター・サンズ事務局長

2021年5月3日

土曜日、日本の沖縄で行われたオリンピック聖火リレーに、グローバルヘルスのアドボケートやリーダーたちで構成する「沖縄発グローバルファンド」チームが参加し、エイズ・結核・マラリア、そして新型コロナウイルス感染症のない世界に向けて、聖火を高く掲げました。

沖縄はグローバルファンドにとって特別な地です。2000年にまさしくこの地で開催されたG8サミットで、日本がグローバルヘルス分野でのリーダーシップを発揮してグローバルファンド設立に向けての礎を築き、当時猛威を振っていたエイズ・結核・マラリアの三大感染症と闘うために世界のリーダーたちを結集させました。当時はこれらの感染症の勢いを止めることはできないと思われていましたが、それから20年の間に、グローバルファンドが支援するプログラムによって、3800万人以上の命が救われました。

しかし、この闘いはまだ終わっていません。世界がエイズ・結核・マラリアとの闘いに加えて、新型コロナという新たなパンデミックにも直面している中、このチームは同じ沖縄で聖火を掲げることによって、感染症との闘いに必要な原動力を世界に思い起こさせました。

私達のチームの聖火ランナーたちは、世界中の何百万人もの人々の代表であり、チャンピオンです。彼らを紹介させてください。

唐眞盛充は、「八重山戦争マラリア遺族会」の事務局長です。戦時中、マラリアが蔓延している地域への強制疎開により、兄がマラリアに罹患し亡くなっています。この悲惨な戦時中のマラリアの話若い世代に伝え、恒久的な平和の実現を願って活動しています。

JOYは、日本の有名なタレントであり、結核に罹患し克服した経験を持っています。結核のために3ヶ月間入院し、さらに9ヶ月の服薬という長い治療を続けました。現在は「スト

ップ結核パートナーシップボランティア大使」として、結核が過去の病気ではなく、また高齢者だけの病気でもないことを人々に理解してもらうために活動しています。

石山紀行は、日本国際交流センター／グローバルファンド日本委員会の有能なデザイナー。健康診断で結核と診断され、9ヶ月間の治療を受けました。彼が、「沖縄発グローバルファンド」チームのロゴをデザインしました。

私もこの「沖縄発グローバルファンド」チームの一員として、グローバルファンドを支援するアドボケーツであるモーリーン・ムレンガ、ゾレーワ・シフンバ、ジェフリー・アカバ、ソー・ウィン・トゥンと共にチームに参加し、走る予定でした。残念ながら新型コロナによる渡航規制のため、沖縄に行ってチームメートと一緒に走ることはできませんでしたが、私たち全員の想いは沖縄にありました。

エイズ・結核・マラリアの流行を終息させ、新型コロナという新たな脅威に打ち勝ち、今後起きるパンデミックに世界中で備えるためには、国際的な連帯と団結の精神が必要です。どうか私と一緒に、沖縄のチャンピオンたちを祝福し、感染症を終わらせるという希望と力、決意を伝えていきましょう。